

### ～市役所内の情報化推進について～

次に、庁内改革の一環として、電算システムの合理化によるコスト削減について伺います。

吹田新選会は、かねてより職員の業務効率の上昇、労働環境の改善、コスト削減のために、システム改善及びパソコン台数の増加を要望してまいりました。今後人員削減が図られる中、現在人の手で行っていることをパソコンに任せる、あるいはより効率よく行うといったことが必ず必要となります。また、これほど情報化が進んだ社会においては、システムについて能力を持った人材をどんどん育て、体制を整えていく必要があります。

吹田市において平成21年7月に出されました基幹系システム再構築計画を読ませていただきましたが、そこには現在使用している大型汎用機をオープン系のサーバーに変更する必要性が書かれています。冒頭には我が市の弱点が書かれており、職員体制上、大型汎用機を運用していくためには外部委託に頼らざるを得ず、コスト高になってしまっています。

現在のシステムでは、職員が減り続ける中、知識や技術が継承されておらず、今後、費用の面でも技術的な面でも、オープン化せざるを得ないことがよく理解できます。また、データベースやプラットフォームの共通基盤を整備することで、23年度、およそ13億円計上されていたIT関係予算を削減することも可能です。

再構築方針では、23年度までに業務整理を進め、自律的な業務見直しの仕組みを確立し、24年度以降に再構築の本格化に取りかかるとしています。

まず、再構築計画の実施状況についてお聞かせください。経費削減のためにも、今後の情報化推進のためにも、基幹系システムの再構築はより優先度を上げるべきであると考えますが、市長の見解をお聞かせください。

情報化推進には、専門的な知識とスキルが求められます。現在ITガバナンスの責任者、CIOは富田副市长がつかれていますが、副市长は業務が多忙であるため、専門家を1名CIOとして雇い、たとえ一時的には費用がかかったとしても、優秀なコンサルタントや臨時雇用員、再任用職員を利用し、スピードアップを図るべきであると考えます。今後の情報化推進の具体的な展望をお聞かせください。

### (川下貴弘総務部長答弁)

基幹系システム再構築計画の実施状況につきましては、現在全体計画を検討している中で、これまでに実施した業務整理の成果物を検証しつつ、総務省が地方公共団体への導入を進めている地域情報プラットフォームを前提に、システム要件の検討を進めているところでございます。

本事業は優先度が高いと考えており、今後は全庁的な協力体制のもと、スピード感を持ちつつ、安全、確実に再構築を進めてまいりたいと考えております。

今後の情報化推進の具体的な展望についてでございますが、本市におきましては、すべ

での市民が便利さを実感できるサービスの充実を図るため、ITガバナンスのもと、計画的で持続可能な情報化のまちづくりの推進を掲げております。そのため、市民サービスの向上につながるシステムの構築を目指し、外部の専門家による技術的な支援も受けながら、CIOを中心に組織横断的に進めてまいりたいと考えております。

**(市長答弁)**

情報化推進についてでございますが、基幹系システムの再構築におきましても、庁内改革の取り組みの中で、選択と集中の考え方を踏まえながら、事業の優先順位を十分に検討してまいりたいと思っております。